

製品市場を追跡する

金属探傷剂

エアロスペース開発協会は、検査する対象物を壊さずに損傷の有無を調べる非破壊検査の一翼を担う製品である。近年の同市場は、半導体不足や各自動車メーカーの認証不問題に伴い、自動車、鉄鋼向けを中心に低調に推移していた。ただし昨年は、鉄鋼向けに引き続き低調だったものの、自動車向けに回復が見られたほか、電力ラント、航空機向けが堅調で、生産量は前年比微増の300万トン強を確保したと観測される。

☆市場の沿革

エゾノール金属探掘剤の草分けの商品は、1957年のマークテック「スーパ」チエック、日本油脂現「タセ」カマーチエック」と目される。ほどなく、太陽物産、栄進化学が登場、電子磁気工業なども姿を見え、輸出品を含めた市場流通量は、89年以降の円高内需拡大政策も追い風に91年の生産量は40万缶にまで上った。しかし92年以降はボストンパル不況、一部銘柄の完成品輸入が重なることにより国内生産量は低迷し、輸出品を含めた市場流通量は、30万缶前後へと後退した。11年は、東日本大震災の影響で自動車向けに発電所向けが苦戦したが、発電所向けの輸入品は比較的堅強で450万缶前後、自動車向けの輸入品は200万缶前後となった。12年は、エコカー補助金の自動車向け、震災復興需要

セ市場が形成された。その後はマーケテツ、日本油脂、栄進化学の3社による寡占が進みながら市場は成長していった。市場規模を年間生産量（日本紙決定）で見ると、69年までは60・80万缶で推移し比較的地味な展開が続いたが、70年以降は上昇気流に乗り73年には50万缶を超え、一気に生産量が倍増した。その後国内を含む建設向けが下支えとなり、数回の原油価格暴落（同

マ
ー
ク
テ
ッ

昨
年
は
激

る。各種製造業における事故多発時代を経て、品質管理に対する意識が深く浸透。販路も原子力や航空、造船業界へと拡大していった。76～80年は造船不況が140万トンで推移している。09年は、前年のリーマンショックに端を発した世界同

306万トン、06年217万トン、07年276万トン、08年357万トンと二進一退。この間、輸入量は10万5千トンで安定推移した。その後15年

100万トン前後へ、その後19年は400万トン前後、20年500万トン前後、2010年520万トン前後、2011年530万トン前後、2012年540万トン前後、2013年550万トン前後、2014年560万トン前後、2015年570万トン前後、2016年580万トン前後、2017年590万トン前後、2018年600万トン前後、2019年610万トン前後、2020年620万トン前後、2021年630万トン前後、2022年640万トン前後、2023年650万トン前後、2024年660万トン前後、2025年670万トン前後、2026年680万トン前後、2027年690万トン前後、2028年700万トン前後、2029年710万トン前後、2030年720万トン前後、2031年730万トン前後、2032年740万トン前後、2033年750万トン前後、2034年760万トン前後、2035年770万トン前後、2036年780万トン前後、2037年790万トン前後、2038年800万トン前後、2039年810万トン前後、2040年820万トン前後、2041年830万トン前後、2042年840万トン前後、2043年850万トン前後、2044年860万トン前後、2045年870万トン前後、2046年880万トン前後、2047年890万トン前後、2048年900万トン前後、2049年910万トン前後、2050年920万トン前後、2051年930万トン前後、2052年940万トン前後、2053年950万トン前後、2054年960万トン前後、2055年970万トン前後、2056年980万トン前後、2057年990万トン前後、2058年1000万トン前後、2059年1010万トン前後、2060年1020万トン前後、2061年1030万トン前後、2062年1040万トン前後、2063年1050万トン前後、2064年1060万トン前後、2065年1070万トン前後、2066年1080万トン前後、2067年1090万トン前後、2068年1100万トン前後、2069年1110万トン前後、2070年1120万トン前後、2071年1130万トン前後、2072年1140万トン前後、2073年1150万トン前後、2074年1160万トン前後、2075年1170万トン前後、2076年1180万トン前後、2077年1190万トン前後、2078年1200万トン前後、2079年1210万トン前後、2080年1220万トン前後、2081年1230万トン前後、2082年1240万トン前後、2083年1250万トン前後、2084年1260万トン前後、2085年1270万トン前後、2086年1280万トン前後、2087年1290万トン前後、2088年1300万トン前後、2089年1310万トン前後、2090年1320万トン前後、2091年1330万トン前後、2092年1340万トン前後、2093年1350万トン前後、2094年1360万トン前後、2095年1370万トン前後、2096年1380万トン前後、2097年1390万トン前後、2098年1400万トン前後、2099年1410万トン前後、2100年1420万トン前後、2101年1430万トン前後、2102年1440万トン前後、2103年1450万トン前後、2104年1460万トン前後、2105年1470万トン前後、2106年1480万トン前後、2107年1490万トン前後、2108年1500万トン前後、2109年1510万トン前後、2110年1520万トン前後、2111年1530万トン前後、2112年1540万トン前後、2113年1550万トン前後、2114年1560万トン前後、2115年1570万トン前後、2116年1580万トン前後、2117年1590万トン前後、2118年1600万トン前後、2119年1610万トン前後、2120年1620万トン前後、2121年1630万トン前後、2122年1640万トン前後、2123年1650万トン前後、2124年1660万トン前後、2125年1670万トン前後、2126年1680万トン前後、2127年1690万トン前後、2128年1700万トン前後、2129年1710万トン前後、2130年1720万トン前後、2131年1730万トン前後、2132年1740万トン前後、2133年1750万トン前後、2134年1760万トン前後、2135年1770万トン前後、2136年1780万トン前後、2137年1790万トン前後、2138年1800万トン前後、2139年1810万トン前後、2140年1820万トン前後、2141年1830万トン前後、2142年1840万トン前後、2143年1850万トン前後、2144年1860万トン前後、2145年1870万トン前後、2146年1880万トン前後、2147年1890万トン前後、2148年1900万トン前後、2149年1910万トン前後、2150年1920万トン前後、2151年1930万トン前後、2152年1940万トン前後、2153年1950万トン前後、2154年1960万トン前後、2155年1970万トン前後、2156年1980万トン前後、2157年1990万トン前後、2158年2000万トン前後、2159年2010万トン前後、2160年2020万トン前後、2161年2030万トン前後、2162年2040万トン前後、2163年2050万トン前後、2164年2060万トン前後、2165年2070万トン前後、2166年2080万トン前後、2167年2090万トン前後、2168年2100万トン前後、2169年2110万トン前後、2170年2120万トン前後、2171年2130万トン前後、2172年2140万トン前後、2173年2150万トン前後、2174年2160万トン前後、2175年2170万トン前後、2176年2180万トン前後、2177年2190万トン前後、2178年2200万トン前後、2179年2210万トン前後、2180年2220万トン前後、2181年2230万トン前後、2182年2240万トン前後、2183年2250万トン前後、2184年2260万トン前後、2185年2270万トン前後、2186年2280万トン前後、2187年2290万トン前後、2188年2300万トン前後、2189年2310万トン前後、2190年2320万トン前後、2191年2330万トン前後、2192年2340万トン前後、2193年2350万トン前後、2194年2360万トン前後、2195年2370万トン前後、2196年2380万トン前後、2197年2390万トン前後、2198年2400万トン前後、2199年2410万トン前後、2200年2420万トン前後、2201年2430万トン前後、2202年2440万トン前後、2203年2450万トン前後、2204年2460万トン前後、2205年2470万トン前後、2206年2480万トン前後、2207年2490万トン前後、2208年2500万トン前後、2209年2510万トン前後、2210年2520万トン前後、2211年2530万トン前後、2212年2540万トン前後、2213年2550万トン前後、2214年2560万トン前後、2215年2570万トン前後、2216年2580万トン前後、2217年2590万トン前後、2218年2600万トン前後、2219年2610万トン前後、2220年2620万トン前後、2221年2630万トン前後、2222年2640万トン前後、2223年2650万トン前後、2224年2660万トン前後、2225年2670万トン前後、2226年2680万トン前後、2227年2690万トン前後、2228年2700万トン前後、2229年2710万トン前後、2230年2720万トン前後、2231年2730万トン前後、2232年2740万トン前後、2233年2750万トン前後、2234年2760万トン前後、2235年2770万トン前後、2236年2780万トン前後、2237年2790万トン前後、2238年2800万トン前後、2239年2810万トン前後、2240年2820万トン前後、2241年2830万トン前後、2242年2840万トン前後、2243年2850万トン前後、2244年2860万トン前後、2245年2870万トン前後、2246年2880万トン前後、2247年2890万トン前後、2248年2900万トン前後、2249年2910万トン前後、2250年2920万トン前後、2251年2930万トン前後、2252年2940万トン前後、2253年2950万トン前後、2254年2960万トン前後、2255年2970万トン前後、2256年2980万トン前後、2257年2990万トン前後、2258年3000万トン前後、2259年3010万トン前後、2260年3020万トン前後、2261年3030万トン前後、2262年3040万トン前後、2263年3050万トン前後、2264年3060万トン前後、2265年3070万トン前後、2266年3080万トン前後、2267年3090万トン前後、2268年3100万トン前後、2269年3110万トン前後、2270年3120万トン前後、2271年3130万トン前後、2272年3140万トン前後、2273年3150万トン前後、2274年3160万トン前後、2275年3170万トン前後、2276年3180万トン前後、2277年3190万トン前後、2278年3200万トン前後、2279年3210万トン前後、2280年3220万トン前後、2281年3230万トン前後、2282年3240万トン前後、2283年3250万トン前後、2284年3260万トン前後、2285年3270万トン前後、2286年3280万トン前後、2287年3290万トン前後、2288年3300万トン前後、2289年3310万トン前後、2290年3320万トン前後、2291年3330万トン前後、2292年3340万トン前後、2293年3350万トン前後、2294年3360万トン前後、2295年3370万トン前後、2296年3380万トン前後、2297年3390万トン前後、2298年3400万トン前後、2299年3410万トン前後、2300年3420万トン前後、2301年3430万トン前後、2302年3440万トン前後、2303年3450万トン前後、2304年3460万トン前後、2305年3470万トン前後、2306年3480万トン前後、2307年3490万トン前後、2308年3500万トン前後、2309年3510万トン前後、2310年3520万トン前後、2311年3530万トン前後、2312年3540万トン前後、2313年3550万トン前後、2314年3560万トン前後、2315年3570万

A row of five Super Check paint cans. From left to right: 1. Blue can labeled 'FP-Q' with '超耐候' (Super Weather Resistant) and '超耐候' (Super Weather Resistant) text. 2. White can labeled 'UD-T-S' with '超耐候' (Super Weather Resistant) and '超耐候' (Super Weather Resistant) text. 3. White can labeled 'UP-ST' with '超耐候' (Super Weather Resistant) and '超耐候' (Super Weather Resistant) text. 4. Red can labeled 'RED-WAX' with '超耐候' (Super Weather Resistant) and '超耐候' (Super Weather Resistant) text. 5. White can labeled 'R-15(NT) Special' with '超耐候' (Super Weather Resistant) and '超耐候' (Super Weather Resistant) text.

る生産量(同年を大きく下回る30万丁弱、21年10万丁)となったが、21年には30万丁規模、同20・30万丁に復調、22年も30万丁(同20・30万丁)と前年並みを確保した。23年は、半導体不足の影響から工場稼働率が低下し、自動車・鉄鋼向けが不調で生産量は30万丁規模(同20・30万丁)へ減少、24年も各自動車メーカーの認証正問題に伴い、自動車・鉄鋼向けが引

引き続き低調で300万缶弱(同20・30万缶)と前年を廻り込んだ。

本紙指定による昨年の市場発生量は、鉄鋼向けは引き続き低調だったものの、自動車向けが回復したほか、電力プラント、航空機向けが伸長し、前年比微増となる300万缶強(うち輸入品20・30万缶)を確保したと観測される。

23年8700万缶、24年8400万缶と漸減推移している影響で低調である。鉄鋼向けに関しては、大手社とも回復の兆しは依然として見られないと指摘している。電力プラント向けに関しては、定期点検需要が底固く、市場の下支えになっている。また、昨 year エアノール金属委探傷剤の大きな需要先である原子力

バーグロー、蛍光磁粉探傷剤「スバーマグナレーション」など幅広い製品ラインナップを展開している。

「昨年の当社金属探傷剤の売上高は前比ほぼ横這で推移した。カテゴリーは別々にみても、自動車向けは一昨年の認証正問題に伴う不調から本格的には回復を見せているものの、一部

☆市場の課題

金属探傷剤市場は自動車 炉の開発が新たに進んでいた。鉄鋼向けは、国内のや鉄鋼、電力などの業界市場から、今後の市場拡大粗鋼生産量の減少に伴い、

ク、夕セト追う
栄進
化学

況に大きく左右される。業
界別にみると、自動車向け
は近年、半導体不足や各自
動車メーカーの認証不正問
題に伴い、数字を落として
いたが、昨年は国内新車販
売台数が前年比3・3%増
の45万5777台（日本自
大が期待されている。その
ほか近年増加している環境
対策一々に対応するため、
タセトの業界初の水へ
すの蛍光浸透探傷剤が発売
されるなど本社環境対応処
方製品の開発販販に注力し
ている。

前年を割り込んだ。一方で
航空機向けは、コロナ禍以
降順調に回復しており、昨
年も民需・官需ともに堅
調で、今後も続けた期待で
きる。電力も向け向けでも
世界的な電力不足の影響を
受け、火力、原子力向けと

自動車販売協会(全日本自動車販売協会連合会) 全国軽自動車協会連合会統計によると年ぶりに増加に転じたことを追いつ風に回復を見せた。一方で、鉄鋼向けは圧延や鍛造などの加工を施す前の鋼である粗鋼の生産量が2021年96633万トン(日本鉄鋼連盟調査、以下、'22年8月22日時点)や、蛍光浸透探傷剤「スーパーマクテック」は、染色浸透探傷剤「スーパーチェック」シリーズを主力に、人や環境への安全性を追求し天然原料・化粧品原料を主成分として使用した染色浸透探傷剤「エコチェック」増していくと見込んでお

り、人園の増加を含め更なる設備投資を推し進めていく。一昨年から始めた、浸透探傷で使用する浸透液を再利用できる循環型「サービシステム」も、既に複数社からの引き合いがあり、順調である。今後、環境対策への取り組みの推進は企業として必要不可欠であると考えているため、同サービスを下支えた。特に電力プラント向けに関しては、原力発電所の再稼働が進んでいるほか、小形タイプの原力発電所の建設が進んでいるという話もあり今後この伸長にも期待できる。製品別では、一昨年に発売した水ベースの蛍光浸透探傷剤「ケイコーチェックN-2PW」が引き続き好調。既存の油ベース製品からの

腐探傷の廃水処理性を向上させるなどのアプローチで、少しでも顧客の負担を減らしていきたい。エンジン製品においては、タツクラベル缶の採用を進めており、コストの削減に努めている。(茨城工場・村本工場長代行)

今年の生産量は60～70万本と観測される。このほかスチーフイン

メーカーと
市販製品名

※各銘柄にそれぞれ洗淨

介部長
本紙推定による（以下）
同）昨年の生産量は100—120
万缶前後、うち海外生産量
20—30万缶と観測される。

が回復

伴い、前年を下回る状況が
続いていたが、昨年によ
やく回復を見せ始め、今年
も前年比微増を確保すると
見込んでいる。エアゾール
金属探傷剤も、その剤型特
長から作業時間を短縮でき
る時短ノイテムとして現場
において重宝されており、
それらがさらに細分化し
ており価格は、定ではない
が平均するとエシット浸
透液1缶、現液液2缶、洗
淨液3缶で5000—7
000円、低ハロゲン・低
硫黄製品や不燃性製品はそ
の約2倍から3倍の価格と
なっている。

剤「カーリーチェック」、重
 光澤探傷剤「ケイコチエ
 エック」、磁粉探傷剤「ジ
 キチエック」を展開してい
 る。昨年には「ケイコチ
 缶前後」を視察される。

昨年の生産量は100万
 カルー、ダイソウ、(ピン
 カルー) 420万、輸出品

「昨年の当社金属探傷剤は、出荷量・売上高ともに前年並みの横這いで推移した。カテグリー別々だと、鉄鋼向けは依然として低調だったが、造船向け、電力プラント向けが好調で全体でいい。」

柴進化学は、染色浸透探傷剤「レッドマーク」を主力に、蛍光浸透探傷剤「ネオグロ」・低ハロゲン・低硫黄の「レッドマーク・ペシャル」・「ネオグロ・ペシャル」、磁粉探傷剤「マグナトロ」、鉄道線路用「グナトロ」、

▲染色浸透探傷剤「レッドマーク」420ミリリットル、（ネオグロ）420ミリリットル、（レッドマーク・スペシャル）420ミリリットル、（ネオグロ・ペシャル）420ミリリットル、（マグナトロ）420ミリリットル、（レッドマーク・ペシャル）420ミリリットル、AWリデライス、日本美容

▲ススカファイン PUS プレー金属探傷剤420ミリリットル

自家充填「ダウニーニチ

昨年の生産量は1億1200万
缶前後と観測される。

先進化学は、染色浸透探
傷劑「レッドマーク」を主
力に、蛍光浸透探傷劑「ネ
オグロ」^{420ミリラム}、低ハロゲン・
低硫黄の「レッドマークス
ベシタル」^{420ミリラム}「ネオグロース
ベシタル」^{420ミリラム}「ネオグロース
ペシタル」^{420ミリラム}、磁粉探傷劑「マ
グナトロ」^{420ミリラム}、鉄道線路用
蛍光浸透探傷劑「レールチ
エック」^{420ミリラム}など多彩に展開し
てゐる。

自家充填▼ダウニーニチ
カラー^{420ミリラム}、輸出品
先進化学（レッドマーク）
420ミリラム、（ネオグロ）<sup>420
ミリラム</sup>（レッドマークスベ
シタル）^{420ミリラム}、（ネオグ
ロースベシタル）^{420ミリラム}
（マグナトロ）^{420ミリラム}
（レールチエック）^{420ミリラム}
AWリライズ、日本美容
▼スカフライン（PUS
ブレイ金属探傷劑）^{420ミリラム}

一昨年の当科金属採掘角
リキスチュエック⁴⁰⁰リ
東邦金属▼太陽物産
ドチュエック⁴²⁰リ
グナブル⁴²⁰リ
▼タセト(カ)ーチエツ
ク(ケイコーチュエック)
各⁴²⁰リ
ジキチュエック
AWライアライ▼⁴²⁰リ
電子磁気工業(フレイ)特
光磁粉F-Y7000型²⁰
自動同寸が余一回復を

見せているほか、原子力発電所を含む電力プラント向け、航空機向けが伸長。製品別では、鉄道線路用蛍光浸透探傷剤「レールチエック」が堅調推移した。雨の日でも曇らない点検が行える膏が評価されており、今後さらに認知を広げると、販売を伸ばせると期

品名	単位	420	420	420	450	450	600	600
AWリライズ▼	トラスコ中山 (G)	420	420	420	450	450	600	600
ウズブレ1	AW	420	420	420	450	450	600	600
リライズ▼	日立エルク	420	420	420	450	450	600	600
インケ・ロッド	ウエル	420	420	420	450	450	600	600
チエック	600	420	420	420	450	450	600	600
ライズ	輸入品	420	420	420	450	450	600	600
マック	420	420	420	420	450	450	600	600
スーパチエック	420	420	420	420	450	450	600	600
(エコチエック)	420	420	420	420	450	450	600	600

待っている。原料粉ニスト
の上昇は落着いてきたもの
の、ユーティリティコス
トや人件費の上昇はなお続
いており、当社の各顧客ど
もコストダウンをより一層
重視している。当社では金
420ミリ、東邦金屬。

傷剤「レッドマーク」を主
 力に、蛍光浸透探傷剤「ネ
 オグロ」、低ハロゲン・
 低硫黄の「レッドマークス
 ペシャル」「ネオグロース
 ペシャル」、磁粉探傷剤「マ
 クナトロン」、鉄道線路用
 蛍光浸透探傷剤「レールチ
 エック」など多彩に展開し

昨年の生産量は1億1200万
缶前後、個別製は、
先進化学は、染色、色浸透探
傷剤「レッドマーク」を主
力に、蛍光浸透探傷剤「ネ
オグロ」、低ハロゲン・
低硫黄の「レッドマークス
ベシカル」「ネオグロームス
ベシカル」、磁粉探傷剤「ル
グナトロ」、鉄道線路用
蛍光浸透探傷剤「ルールシ
ェック」など多彩に展開し
ている。

一昨年の当社金属探傷機の販売数量・売上高はいずれも前年比横這いで推移した。ここ数年、原材料コストの急激な上昇に振り回されてきたが、昨年は高騰も収まり、市場に安定感が戻ってきたように感じている。鉄鋼向けは依然として調子が上がらないものの、自動車向けが余り「回復」

見せているほか、原子力発電所を含む電力プラント向け、航空機向けが伸長。製品別では、鉄道線路用蛍光浸透探傷剤『ルールチェック』が堅調推移した。雨の日でも支障なく点検が行える特長が評価されており、今後さらに認知を広げることで、販売を伸ばせると期

待っている。原材料コストの上昇は落ちてきているものの、ユーティリティコストや人件費の上昇はなお続いており、当社の各顧客ともコストダウンをより一層重視している。当社では金

栄進化学(レッドマックス)
420 リットル
ミドリ、(ネオクロール) 420
リットル、
シャル) 420 リットル、
ロースペシャル) 420 リットル、
(マナトロン) 420 リットル、
(レルチェック) 420 リットル、
AWリアライズ、日本美容
▼スカファイン(PUS
プリー金属探傷剤 420 リットル

カウ	タイ	輸入品
420	420	420
栄進化学	レッドマーク	
420	(ネオクロール)	420
リットル、	レッドマークスベ	420
シャル)	420	
ローズベシャル)	(ネオタ	420
420	リットル、	420
(マクナトロ)	420	
(リールチエッ)	420	
AWアラエツ、日本美奈		
▼スネカアイシ	420	
ブルー金属探傷機	420	
自家充填▼ダイソーニチ		

リ(キスチエック) 420ミリ
東邦金属 太陽物産(レック)
ドチエック) 420ミリ
クナゾル) 420ミリ
アタセト(カラーチエック)
ク(ケイロチエック)
各420ミリ、(ジキチエック)
420ミリ、AWリアライズ
電子磁気工業(アプリー) 常
光磁粉F Y 7900型

420
リッペン、AWリアライズ▼
トラスコ中山(αタンシヨ
ウズプレー) 420
リアライズ▼日本ウエルテ
インケ・ロッド(ウエル・
チェック) 600cc、AWリア
ライズ、輸入品▼マークテ
ック(スーパーチェック)
450
リッペン、600
リッペン、(エコチ
エンク) 450
リッペン、600
リッペン、

(スパー・クロ) 420
ミルトル
(スパー・マグナリー) 10
420
ミルトル
ゾル) 420
ミルトル
イス、輸入品▼モノタロウ
(探傷スプレー) 420
ミルトル▼
横浜油脂工業(RTEC) 504
420
ミルトル
東邦金屬。

株式会社社会工アゾール産業新聞 発行

エアゾール&受託製造産業新聞 No.1908 (2026年1月15日)